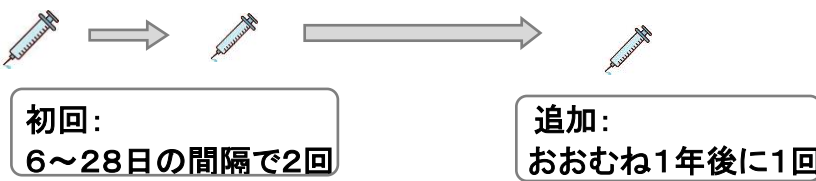


日本脳炎予防接種について

◆日本脳炎とは

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスの感染で起こります。
人から直接ではなく、ブタ等の体内で増えたウイルスが蚊によって媒介されます。
潜伏期は、7～10日、突然の高熱・頭痛・嘔吐・意識障害・けいれん等の症状を示す急性脳炎です。脳炎にかかった人の死亡率は高く、その半数は、神経の後遺症を残す病気です。
最近では、西日本の高齢者を中心に発症していますが、若年者の発症も見られます。

【対象年齢・接種スケジュール】
対象年齢： 1期 生後6か月から7歳6か月未満
2期 9歳から13歳未満

標準的な接種年齢	接種回数	標準的なスケジュール
<1期> 初回：3歳以上 追加：4歳以上	3回	 初回：6～28日の間隔で2回 追加：おおむね1年後に1回
<2期> 9歳～10歳未満	1回	1回のみ

【副反応について】
まれに接種直後から翌日に、発疹・じんましん・かゆみ等の過敏症が見られることがあります。
また、全身症状としては、発熱・悪寒・頭痛・倦怠感・吐き気など接種部位の局所部位の発赤・腫れ・痛みなどが認められることがありますが、通常は2～3日中に消失します。
さらに、ごく稀に急性散在性脳脊髄炎（ADEM）という副反応がみられます。

特例措置

ワクチンによる副反応を疑う事例があったことから、平成17年5月より積極的な勧奨を差し控えていた日本脳炎の予防接種について、新しいワクチンが開発され、その有効性・安全性が確認されたため、平成21年6月より新ワクチン（乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン）での接種が開始となっています。
勧奨差し控えにより、幼児期に受ける第1期3回の接種および、10歳前後で受ける第2期1回の接種が済んでいない方は、以下の対象に限り接種できます。

<対象者>
平成7年4月2日から平成19年4月1日生まれの方は、20歳になるまでの間に第1期不足分・第2期末接種分を接種することができます。

接種する際は、医療機関に予約し、予診票と母子健康手帳を持参して受けましょう。
※特例措置の対象者の予診票がない方は、母子健康手帳を持参し、健康推進課へお越しください。